

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	特別実習 I
科目名 (英文)	Training for Research I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	3年次・後期～4年次・通年
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	太田 茂、安原 智久、須野 学、中津 亨、相馬 洋平、 田村 理、長野 一也、長田 茂宏、三宅 歩、那波 宏之、 佐藤 慎太郎、新谷 紀人、岩倉 浩、岩尾 康範、中川 貴之、 岡田 浩、江頭 伸昭、今井 哲司、入江 克雅、 田中 千晶、木口 倫一、佐能 正剛、松本 みさき、山田 孝明、 山下 哲、佐々木 大輔、山下 琢矢、菱田 友昭、難波 寿明、 岩田 圭子、福田 達也、土井 光則、永田 実沙、伊藤 雄大、 大西 裕介、澤崎 鷹、氏家 和紀、堤 峻太郎、中西 和也、 藤林 英徳、野口 雅史、延生 卓也、上田 陽子、池田 真由美、 荻原 孝史、射場 日佳里、岩井 佑磨、小柳 円花
科目ナンバリング	P8001JE
関連科目	特別実習 (入門)、特別実習 II

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師は薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と不断の研究マインドを持ち合わせなければならないことを知り、実践する。特別実習 II において薬学科学生としての問題発見能力および問題解決能力を醸成するための研究マインド、倫理、研究室での人の繋がり的重要性、ならびに情報収集能力、研究基礎技術の習得を目指す。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と研究マインドを備えているもの

特別実習は、薬剤師には幅広い活躍領域が存在し、薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と不断の研究マインドを持ち合わせなければならないことを知る。薬学科学生としての問題発見能力ならびに問題解決能力を醸成するものである。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

薬学科学生として、専門的な知識の再生のみではなく、研究を行う中で、問題発見および問題解決能力を醸成する。特別実習 I では、その結果の中間まとめを行い、中間発表を行う。

授業計画

- ・ 研究計画立案
- ・ 実験手技基礎実習
- ・ 原著論文輪読セミナー
- ・ 実験結果発表・討論
- ・ 実験結果中間まとめ
- ・ 実験結果中間報告・質疑応答

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

原著論文輪読セミナー実施時

中間報告質疑応答実施時

評価方法

指導教員による原著論文輪読セミナーの観察記録（50%）

指導教員による中間報告質疑応答の観察記録（50%）

評価基準

総評価の60%以上で合格。

担当者の研究室等

各指導教員に従う。

備考

研究時間については、指導教員が実験ノート等により確認，担保する。

事前・事後学習課題

特になし。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	特別実習Ⅱ
科目名（英文）	Training for ResearchⅡ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	5年次・通年～6年次・通年
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	太田 茂、安原 智久、須野 学、中津 亨、相馬 洋平、 田村 理、長野 一也、長田 茂宏、三宅 歩、那波 宏之、 佐藤 慎太郎、新谷 紀人、岩倉 浩、岩尾 康範、中川 貴之、 岡田 浩、江頭 伸昭、今井 哲司、入江 克雅、 田中 千晶、木口 倫一、佐能 正剛、松本 みさき、山田 孝明、 山下 哲、佐々木 大輔、山下 琢矢、菱田 友昭、難波 寿明、 岩田 圭子、福田 達也、土井 光則、永田 実沙、伊藤 雄大、 大西 裕介、澤崎 鷹、氏家 和紀、堤 峻太郎、中西 和也、 藤林 英徳、野口 雅史、延生 卓也、上田 陽子、池田 真由美、 荻原 孝史、射場 日佳里、岩井 佑磨、小柳 円花
科目ナンバリング	P8002JE
関連科目	特別実習（入門）、特別実習Ⅰ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師は薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と不断の研究マインドを持ち合わせなければならないことを知り、実践する。薬学科学生としての問題発見能力および問題解決能力を醸成する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と研究マインドを備えているもの

特別実習は、薬剤師には幅広い活躍領域が存在し、薬学の専門家として高度かつ専門的な知識と不断の研究マインドを持ち合わせなければならないことを知る。薬学科学生としての問題発見能力ならびに問題解決能力を醸成するものである。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

薬学科学生として、専門的な知識の再生のみではなく、研究を行う中で、問題発見および問題解決能力を醸成する。その結果を卒業研究発表会に発表し、卒業研究論文として提出する。

授業計画

- ・ 研究計画修正
- ・ 実験実習
- ・ 原著論文輪読セミナー
- ・ 実験結果発表、討論
- ・ 実験結果まとめ
- ・ 実験結果報告、質疑応答
- ・ 卒業論文作成

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

卒業研究発表会実施時

卒業論文提出後

評価方法

卒業研究発表会における発表内容（50%）※全薬学部教員により定量的評価

卒業論文の評価（50%）※指導教員と学生が配属されていない講座教員による評価

評価基準

総評価の60%以上で合格。

担当者の研究室等

各指導教員に従う

備考

研究時間については、指導教員が実験ノート等により確認、担保する。

事前・事後学習課題

特になし。